

平成31年

新年賀詞交換会

1月11日、中央生涯学習センターで新年賀詞交換会が開催され、271人の市民が牛久市のさらなる飛躍、発展を祈りました。ここでは、主催者代表の根本洋治市長のあいさつを紹介します。

市長あいさつ(要旨)

明けましておめでとうございます。日ごろより皆さんには市政各般にわたり、ご理解、ご協力をいただきまして感謝申し上げます。

◆次世代のためのまちづくりを

市長就任4年目となり、就任時に提案しました12の施策も市民の皆さん、そして議会の皆さん、多くの関係者によって、その成果が表れつつあります。

私の大きな課題、ひたち野うしく中学校は多くの皆さんにご協力をいただき、幼稚園とともに2020年



4月に開校します。これにより幼稚園、小学校、中学校と教育環境が整います。しかし、一方では、ひたち野地区においては、住宅建設用地が少なくなってきたっており、県とも土地の活用について、話を進めております。あと数年でもっと違う住宅建設用地を提供し、新しいまちができると期待しております。

また、長年の懸案でございました、武道館の建設をしています。今年9月には、45年ぶりに茨城県で国体が開催され、牛久では軟式野球と空手道が行われますが、武道館はその補完施設として建設をしております。武道館は、多機能福祉施設として、災害が起きた時にも活用できるようにと準備しており、3月には皆さんにお披露目できると思います。

牛久市では市民満足度調査を行い、市民にとって、いま何が必要なのか、いま進めることは何かを調査しております。昨年は防犯カメラ、通学路の安全、道路の補修など要望の多かった施策を、早速実施してまいりました。

牛久独自である子どもの医療費助成として、おたふくかぜの医療費全額助成をはじめ、次世代育成のための施策を一つひとつ積み重ね、私たちの環境が、これから子どもたちを育てていくためにより良い環境とするためにはどうしたらよいか、皆さんと話をしながら進めてまいります。

◆「復活」をキーワードに

牛久シャトーからのレストラン、物販事業撤退については、語気を荒げることもありました。今は牛久シャトーの早々の復活を願い、オエノングループの方とも、お互いに知恵を出し合いながら、鋭意進めております。春先、あの素晴らしい桜が咲く地を、また皆さんの集える場所にしたいと思っております。

エスカードビルについては、イズミヤの撤退から2年経ち、TAIRAYAさんの出店、ゴールドジムさんの出店がございました。TAIRAYAさんには大変無理を言いまして、5カ月でオープンすることがで

きました。エスカードビルも、現況を踏まえ、適切な運営を図らないと、これからの牛久に大きな影を残すと懸念しています。危機感を持ち、皆さんのご意見をいただきながらしっかりとやって参ります。

私は、今年のキーワードに復活ということを考えております。牛久シャトー、エスカードビルの復活、そして稀勢の里関の復活でございます。その3つを私は牛久ルネサンスと名付けて、全力で取り組みたいと思います。私たちの大きな課題を克服することでもっともつと違う牛久が見えると思います。皆さんのご支援をいただき一丸となってこれからの牛久のため、そして輝く牛久、オール牛久のため、これから皆さんと一途に進進する覚悟でございます。

〜横綱稀勢の里関の引退に寄せて〜
横綱稀勢の里関は現役を引退し、年寄荒磯として後進の育成に励むことになりました。新たな名前での復活と躍進をご祈念いたします。

